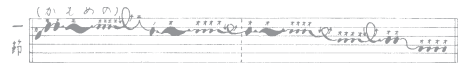


やんさノエ

会報

2011 No.16



発行 江差追分会

2011.11.25

北海道松山郡江差町中歌町193-3

TEL 0139-52-5555

FAX 0139-52-5544

ホームページアドレス <http://www.hakodate.or.jp/oiwake/>



今年の全国大会風景

江差追分全国大会を振り返って

江差追分会副会長 馬川 政紀

昭和三十八年十月十三日、その日は絶好の好天に恵まれ、会場の「江差劇場」は早朝から多くの町民、出場者、役員が集まり場内は満員の盛況であった。これが来年五十回大会を迎える「第一回江差追分節全国大会」の幕開けであった。

東京と仙台に追分会の支部があったことから大会名を「全国大会」に決定した。と聞いている。一回目の大会には、九十八名の申し込みであったが、七十七名の選手が出場し、その中から二十三名（予定では二十名）の予選通過者を選出、十人の入賞者を決定した。以降四十九回の大会の中で予選通過者は参加選手増加に伴い二十名から三十名、そして五十名になり、熟年も二十五名となって現在に至っている。

第二十五回大会から五年ごとに「記念大会」の冠を付け「世界追分祭」等のアトラクションを開催してきている。

来年九月には五十回記念大会を迎えるのであるが、過去四十九年の歴史の中には、出場者の増加に伴って一日だけの大会から、二日間、三日間になり、夏休みを利用した少年だけの大会、高齢者の部から熟年の部の名称変更や年令の引き上げなど、幾多の改革をしながら今日の大会開催となっている。

会場も、江差劇場、江差中学校、文化センター、文化会館と四箇所変更されている。

五十回の記念大会は、町民をはじめ、追分に関係する全ての人に感謝すると共に、江差追分の新たな創造を目指す大会である。

地元実行委員会も年内には各専門部会を開催し、「感謝と創造」に向けてスタートを切る予定である。

第四十九回江差追分全国大会

半世紀の大会に向けて――

優勝を飾る

- 一般／瀧本 豊 壽さん
 熟年／榎本 弥惣七さん
 少年／松島 翔 香さん

本年九月十六日から十八日まで三日間、第四十九回江差追分全国大会が、江差町文化会館で開催された。同時開催の熟年全国大会、少年全国大会は第十五回となる。

出場者一般百八十二名、熟年百五十三名（六十八歳以上）、少年七十四名



前年度優勝者の唄と踊り

の中から一般五十名、熟年二十五名が予選を通過し、決選大会に出場した。

十八日の決選会で、一般、瀧本豊壽さん（深川市・六十五歳）、熟年、榎本弥惣七さん（網走市・七十六歳）、少年では松島翔香さん（登別市青葉小六年（十一歳））が優勝の栄冠を飾った。

毎年の大会で日本一を決める優勝の行方が話題になるが、本年は一般、熟年とも前年の準優勝者がベテランの力量で優勝を手にした。一般優勝の瀧本さんは、北檜山町の出身で、第三十九回（平成十三年）以来六回入賞、熟年の榎本さんも七回入賞の経歴がある。

追分全国大会も明年は五十回と、半世紀を重ねてきただけに、出場者も習熟した力量で臨むようになったが、決選の舞台で自己の力量を発揮することは難しい。

瀧本さんは、過去一般優勝では最高齢の優勝を果たした。熟年優勝の榎本さんも個性的な唄で本年の優勝者は何

れも高いレベルだったと近江八声委員長は評価している。少年優勝の松島翔香さんは子どもの唄にしては特に優れていたという。

近江審査委員長は、大会全体を通して「情緒味わいを唄いあげることが基本で、唄い手の個性を取り入れることを習得しなければならぬ。個性がなければ安易な調子になってしまう」全体としてはレベルアップして、そのない唄になっているが、味わいの深さが無い画一的な傾向にあると指摘している。

本大会では、明年の五十回大会の節目に向けて、アトラクションや大会運営の演出など、新たな方法を取り入れ次回に備える試みが行われた。

（学芸理事 松村 隆）

一般部門入賞者

- 優勝 瀧本 豊壽（深川市）
 準優勝 杉本 武志（東京都文京区）
 第三位 川俣 明彦（埼玉県草加市）
 第四位 黒森このみ（札幌市）
 第五位 村川真奈美（苫小牧市）
 第六位 寺島真里絵（乙部町）
 第七位 高橋 紗里（千歳市）
 第八位 井上さつき（北斗市）

審査員特別賞

- 第九位 杉野由美子（江差町）
 第十位 柿沼 初雄（栃木県宇都宮市）
 山崎也寸志（ブラジル）

熟年部門入賞者

- 優勝 榎本弥惣七（網走市）
 （昭和五十九年より故若月建造師に師事、後二代目近江八声師に師事、北海道民謡大会、日民全道大会で江差追分優勝、網走声友会支部長）



熟年優勝の榎本弥惣七さん

- 準優勝 木田 弘（札幌市）
 第三位 飯尾 利雄（洞爺湖町）
 第四位 鈴木 弘（音更町）
 第五位 細木 利良（音更町）
 第六位 山田 實（伊達市）
 第七位 飯村 幸子（函館市）
 第八位 奈良たか子（帯広市）
 第九位 国府 克（京都府京都市）
 第十位 那須 勇（札幌市）

江差追分全国大会で優勝

ひと 2011



平成二十三年九月二十四日
北海道新聞

「喜ぶを聞きしめる。2、3歳のころ、亡き母の背中から聞いたソラン節などの民謡が原点。小学生の時、廊下を歩きたりながら大きな声で歌って叱られるほどの歌好きだった。『子守歌のように歌ってくれた母の歌が今も体に」

「喜ぶを聞きしめる。2、3歳のころ、亡き母の背中から聞いたソラン節などの民謡が原点。小学生の時、廊下を歩きたりながら大きな声で歌って叱られるほどの歌好きだった。『子守歌のように歌ってくれた母の歌が今も体に」

滝本 豊寿さん

少年部門入賞者

- 優勝 松島 翔香 (登別市)
- (昭和十七年三上恵久英師に師事、幼・少年少女全道民謡大会幼年の部優勝、少年少女の部優勝、登別陽春会所属)



少年優勝の松島翔香さん

審査員奨励賞

- 準優勝 田村つくし (江差町)
 - 第三位 竹野 留里 (室蘭市)
 - 第四位 東 美羽音 (札幌市)
 - 第五位 前川みどり (江差町)
 - 第六位 水野 安奈 (江差町)
 - 第七位 高橋 稜 (江差町)
 - 第八位 大西莉華子 (千歳市)
 - 第九位 福田 花梨 (厚沢部町)
 - 第十位 竹本祥千子 (函館市)
- 西口真由奈 (奈良県大和郡山田市)
石坂 竜巳 (千歳市)
藤元 美沙 (旭川市)
鈴木 清か (愛知県みよし市)
黒森 美咲 (札幌市)

第五十回大会に

向けての取り組み

大会運営、アトラクションの演出

明年は、第五十回を迎える半世紀節目の大会となることから、今後様々な取り組みが検討されるが、今大会では主として大会日程の時間配分やアトラクションの演出などを重点に、次回に向けての試みが行われた。

町民追分大合唱、次代を担う少年少女による江差追分大合唱や歴代優勝者の唄などで、特に今回は、東北「被災地からの唄声」とプレ大会としてプロ民謡歌手の番組を取り入れていく。出演日程は次のとおり。



町民追分大合唱

九月十六日 (19時～20時)

◆町民追分大合唱

◆江差町観光大使「江村貞一」・民謡歌手「京極加津恵」コンサート

九月十七日 (20時～21時35分)

◆少年少女による江差追分大合唱

◆東北地区の民謡「被災地からの唄声」

◆前年度少年全国大会優勝者の唄

◆前年度一般全国大会優勝者の唄と踊り

◆歴代優勝者の唄掛け合い

大会日程ではできる限りスケジュールを短縮して、新たな番組を組み入れるよう検討した。従来アトラクションは最終の三日目に行っていたが、新たな番組を組み込むため、三日間の予選、決戦終了時間帯を利用することに編成した。

大会運営では、入賞者発表から表彰に手間取ることから、少年、熟年、一般とも決選終了次第、入賞者十名(少年は十五名)を発表、待機してもらい、順位発表も優勝者から一括して表彰授与に流れを変えた。従来は四位までと三位以上の二段階であった。

被災地からの唄声

観客の感動を呼ぶ

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

援金を頂いたことに対するお礼と、被災された会員へ配分したことの経過報告がなされました。

アトラクションに先立ち、東北地区運営協議会の王藤会長より全国の追分会支部、会員よりたくさんの方々が、

引き続き、実際に本人が被災し、避難所生活を強いられた盛岡アカデミー支部の新保公さん（岩手県山田町）は、福島県民謡の「新相馬節」を、宮城県で経営している工場を被災された仙台支部の鈴木克典さんが「宮城長持唄」を、釜石市のご両親を亡くされた佐野より

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

被災地で触れた追分魂・追分道

秋田中央会支部長 佐々木 東雲

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

鎮魂追分

作詞 千葉栄人

【前唄】

弥生三月

リアスの浜にヤンサノエ

黒い牙むく 大津波

助けておくれよ 此の世の地獄ネ

神も仏も ないものか

【本唄】

呼べど 叫べど 無情の 風に

愛し 我が子は 波の底

【後唄】

涙こらえて 磯辺に立てばネ

望みひとすじ 彼岸花



会場の涙を誘った「鎮魂追分」



尺八伴奏をする佐々木さん（左から2人目）

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

予選会二日目の十七日、予選会終了後、三月十一日に発生した東日本大震災で被災された岩手、宮城の追分会員らによるアトラクションが行われ、素晴らしい唄声を会場に響かせ、観客から大きな拍手が贈られました。

かもめ島上で 追分大合唱 尺八大連管

かもめ島上にある、初代浜田喜一師
顕彰像及び鷗嶋軒小路豊太郎翁顕彰碑
前で全国大会前日の9月15日に関係者
約百人が集まり、追分大合唱と尺八大
連管を行いました。

江差追分会にとって、不滅の業績を残され
た偉大なる大功労者であるお二人の銅像と顕
彰碑の前で江差追分全国大会がこの半世紀江
差町で開催してこられたことへの感謝と今後
益々の発展を祈念して、今年度初めて実施し
ました。

この行事はいよいよ来年が本番です。より
多くの追分愛好者にお二人の遺徳を偲んで参
加していただきたいと思えます。

かもめ島での大合唱のあと、追分会館にて
地元料理を堪能し、北前船によって築かれた
歴史・文化を再認識し、壮大なロマンを現代
に蘇らせる活動を展開している「現代版北前
船プロジェクト」のメンバーであるチェンバ
ロ奏者「明楽みゆきさん」のコンサートを楽し
みました。



全員で記念撮影



アトラクションで唄う新保さん

古里に勇気を 被災者熱唱

岩手県山田町の
新保さん

新保さんは全国大会出場七回目。
震災による火災で自宅を焼失した。

家族は無事だったものの、震災翌日、
自宅周辺が一面、津波と火災で「焼
け野原」になっている状況を見た時
は、ただぼうぜんとするしかなかっ
たという。

避難所で暮らし、日がたつにつれ
「被災者自らが元気になるうとならない
といけない」と思うようになった。五
月頃から、周りの迷惑にならないよ
うにと毎朝、避難所近くの滝へ行き、

約十年間続けてきた江差追分の練習
を始めた。

七月下旬に仕事を再開し、仮設住
宅に移った。忙しくなった上、帰宅
後も壁の薄い仮設住宅では練習がま
まならなかった。それでも「決選会
に出場して山田町の人を勇気づけた
い」と大会出場を決めた。

あまり練習できずに迎えた十七日
の予選会。舞台上立つと震災前の山
田町の景色と応援してくれている地
元の仲間の顔が自然と浮かんできた。

「出来はいつもの半分くらい」。決選
会出場はならなかった。

大会には、経営する工場が津波で
流された仙台の人も出場した。新保
さんから東北地区の出場者ら十一人は
十七日のアトラクションでも、東北
の民謡を歌った。

新保さんは江差追分について「難
しいからこそ人を引きつける魅力が
ある。山田町で愛好者を増やしたい
と話していた。

(九月二十一日 北海道新聞掲載記事)

石川県珠洲市の小学生が

江差追分の体験を

江差町能登会が毎年行っている珠洲市江差町次世代交流事業で、友好都市珠洲市から小学五・六年生四人が八月十一日、江差追分会館で約一時間、江差追分の指導を受けました。

江差追分会珠洲支部の小山支部長が江差へ行くなら是非追分体験をメニューにと、珠洲市教育委員会へお願いし実現したものです。

最初に昨年この事業で珠洲市を訪問した昨年度の少年大会優勝者、田村ひよりさんが江差追分を披露。杉山由夫正師匠の熱心な指導を受け、



珠洲市の小学生の前で唄う田村さん

初めは恥ずかしそうにしていた子供たちも、最後は大きな声で江差追分を合唱していました。

この中から一人でも江差追分に興味を持ってくれるといいですね。

第五十回記念江差追分全国大会 実行委員会設立総会終了する

九月九日、第五十回記念大会実行委員会の設立総会を開催しました。

実行委員会メンバーは、江差追分をはじめ、町、町議会、商工会、観光コンベンション協会、歴まち商店街協同組合、教育委員会、文化協会など町内主要団体の代表者二十三名。

設立総会では、実行委員会規約、役員を選出や①大会②シンポジウム③イベント④宿泊⑤広報宣伝⑥会場設営の六専門部会に分かれ、準備していくことなどを決めました。

実行委員長には、濱谷江差町長（追分会会長）が就任し、「江差追分をこの町に残してくれた先人に感謝し、来年の五十回大会を町民一丸となって成功に向けて取り組んでいきたい」と意欲を示しました。

今後、事業の詳細については、各専門部会において詰めていく予定となっております。

平成二十三年 度 秋季追分セミナー始まる

十一月三日より秋季江差追分セミナーが開催され、第一週目の受講者三十九名は三日間、みっちり追分の徹底指導を受け、最終日には「追分酒場」で楽しいひとときを過ごし交流を深めておりました。

来年二月には第二十七期江差追分セミナーが開催（最終ページ「事務局からのお知らせ」参照）されますので、興味のある方は参加願います。



第1週目のセミナーの様子

名誉師匠 田村重光氏 逝去



ご冥福を
お祈りします

江差追分会名誉師匠の田村重光さん（七十三歳）が九月二十四日逝去されました。

田村さんは、昭和四十八年に釧路支部を発足、道東地区で江差追分の普及伝承に務めるとともに、地区予選大会及び全国大会審査員、追分会理事として江差追分事業に率先して取り組み、追分の振興に尽力されました。

お通夜では、参列者による追悼追分合唱が行われ、故人と最後の別れを惜しまれました。ご冥福をお祈りいたします。

第50回江差追分全国大会記念 江差追分新歌詞を募集

江差追分では、来年の平成24年（2012年）に迎える「第50回江差追分全国大会」を記念して、江差追分の新歌詞を募集します。

▼応募内容

募集歌詞…江差追分の前唄・本唄・後唄の3部構成による七七七五調で未発表のものに限ります。

▼応募資格

年齢、性別、住所について制限はありません。

▼応募方法

応募歌詞は1人1作品とし、郵送またはファックス、電子メールにて応募願います。

住所・氏名・年齢・性別・電話番号・FAX番号を明記し、下記まで送付（送信）ください。

〒043-0034 北海道檜山郡江差町字中歌町193-3

江差追分会事務局

江差追分新歌詞募集係

FAX 0139-52-5544

E-mail : esashioiwake@hokkaido-esashi.jp

▼応募期間

平成24年6月30日（消印有効）

▼選考方法

江差追分会が設置する「第50回記念江差追分全国大会新歌詞選定委員会」において審査し決定します。

▼賞及び副賞

最優秀賞 1作品 5万円相当の江差町特産品と副賞

優秀賞 2作品 2万円相当の江差町特産品と副賞

佳作 3作品 1万円相当の江差町特産品と副賞

発表及び表彰は、7月中旬に江差町ホームページ等で発表し、賞品の発送をもって表彰に替えさせていただきます。また、第50回記念江差追分全国大会プログラムにも掲載を予定しております。最優秀作品については、平成24年9月に開催される第50回江差追分全国大会の中で、歴代の江差追分全国大会優勝者の中から一人を選出し、唄を披露することを検討しております。

▼応募作品の取扱いと注意事項

- ① 採用作品に関する一切の権利は、江差追分会に帰属します。
- ② 応募作品は返却しません。
- ③ 応募にかかる経費は応募者で負担するものとします。
- ④ 応募に際し取得した個人情報、上記目的及び目的に係わる事務以外に使用しません。ただし、受賞者については、江差町ホームページ、新聞等報道機関で氏名等を発表する場合があります。

▼応募先及び問い合わせ先

江差追分会

〒043-0034 北海道檜山郡江差町字中歌町193-3

江差追分会事務局

電話 0139-52-5555（9:00～17:00） FAX 0139-52-5544

E-mail : esashioiwake@hokkaido-esashi.jp

事務局からのお知らせ

一、江差追分セミナーの開催

二月に次の日程で開催します。

【二月江差追分セミナー】

- 二月 二日(木) ～ 四日(土)
 - 二月 九日(木) ～ 十一日(土)
 - 二月 十六日(木) ～ 十八日(土)
 - 二月 二十三日(木) ～ 二十五日(土)
- いずれも時間は九時～十七時まで

※受講料はお一人様三日間コース一万五千元となりますが、二週以上受講される方につきましては、二週目以降受講料は一万円と割引になります。

二、冬季師匠会研修会の開催

今年度も唄の指導方法及び伴奏の技術向上を図ることを目的に、第二回目の師匠会研修会を次のとおり開催します。

- ・日程 二月十九日(日)
午前十時三十分～午後三時
- ※師匠会総会後に開催します。
- ・会場 ホテルニューえさし

三、資格認定審査会の開催

今年度の資格認定審査会については、十二月に地区運営協議会を通じて周知しますので、申請は地区運営協議会を経由して三月一日までに申請して下さい。

なお、日程等については、次のとおりとなります。

- ・日程 平成二十四年三月十八日(日) 午前九時～
- ・会場 江差追分会館
- ・認定区分 師匠・準師匠・講師・準講師

四、平成二十四年度江差追分理事会・総会

- ・日程 平成二十四年四月二十二日(日) 理事会 午後一時 総会 午後三時
- ・会場 ホテルニューえさし

尺八のご寄贈

有難うございました

- 熊野 正 宏氏 登別笛声会支部長 竹八本
- 小野寺 安 喜氏 東京練馬支部長 竹二本
- 菅野 繁 子氏 旭川南支部長 竹二本

小林悦 山氏

NPO法人青少年と伝統芸能を育てる会理事長

塩ビ管二十本

秋季セミナー・追分酒場から



追分酒場で自慢のノドを披露



追分漬けの3日間

第五十回記念江差追分全国大会の日程を間違わないように

来年度の記念大会の日程は、第三金曜日から始まりますので、九月二十一日(金)～二十三日(日)です。
※土曜・日曜が第四となるので、勘違いする方がおります。

|| 編集後記 ||

もう江差でも雪虫が飛び、冬がそこまでやってきています。楽しいはずだった十一月も、日本ハムファイターズのクライマックスシリーズ連敗で日本一の夢は砕け散り、ファンとしては、一段と寒さが身にしみる今日この頃です。

来年の開幕戦、札幌ドームで江差追分全国大会日本一の国歌斉唱・・・なんてどうかな？ (N)

各地区運営協議会・支部からの情報をお待ちしております。

どのようなことでも結構ですので、活動や事業の趣旨を記載し、写真を添えてお送りください。なるべく紹介したいと思っております。

- 【編集】 岩淵啓介・松村 隆 館 和夫・高田 裕
- 【企画】 江差追分会事務局